

あとがき

小宮文人先生はめでたく古稀を迎えられ、2019年3月31日をもって専修大学法科大学院を定年退職されました。

本書は、小宮文人先生、本久洋一先生が北海道から東京に赴任後、立ち上げた國學院専修労働判例研究会の参加メンバー有志が参集し、執筆したものです。同研究会は北海道大学労働判例研究会出身の研究者のほか、関東の若手研究者さらには弁護士、社労士、会社員などの実務家で構成されており、毎月1回の頻度で、労働判例等の検討を行っています。多様なメンバーが参加する研究会において、小宮文人先生はいつも、にこやかに自由闊達な議論を促すとともに、的確かつ広い視野から様々なご指導を頂いています。本書は先生から受け続けている大きな学恩への感謝を込め、上梓しました。

ところで近年、働き方改革関連法に代表されるとおり、「労働立法」の時代を迎えています。他方で人事権の行使、労働時間、雇用終了など様々な局面において、新たな法的課題が生じており、改めて労働契約論に立ち戻った検討の必要性が高まっています。本書は「労働契約論の再構成」をタイトルに全5部構成とし、研究会参加メンバーである研究者および実務家が自らの関心テーマごとに労働契約論からの再考を行なっています。

非常に限られた時間の中、各執筆者は原稿を提出頂き、古稀記念論文集の発刊に至りました。改めて執筆者の皆様にお礼を申し上げますとともに、小宮先生の今後のご健康と一層の活躍を祈念申し上げます次第です。

最後に快く刊行を引き受けて頂いた法律文化社、殊に本書を企画段階から担当し、大変なご尽力を頂いた同社編集部の小西英央氏に、深くお礼を申し上げます。

令和元年初夏

執筆者一同